



検査の検はよく分かったと思いますが、では“査”はどういう漢字でしょうか。

且は、地上に物を積み上げた形を表わした部首です。“積み重ねる”のが本義です。

査は、“記録(書類)を重ねる”ことで、“しらべる”という意味を表わしたものです。音は、^ソ且が変化してサとなりました。so→sa。このような変化を同行相通と言ひ、よくある変化です。

祖は、なくなったおじいさん、ひいじいさん、そのまたおじいさんを言ひます。“ネ”は^{しめす}示へんと言ひ、神様に関係ある部首で、多く“神”の意味に使われます。従って“租”は、先祖代々の神様ということで「先祖」「祖先」というように使われます。

組は、何本もの糸をくみ合わせて編んだ“くみひも”が本義です。今は、糸をくむことに限らず“くみ合わせる”意味の“くみ”に広く使われています。

租は、積み重ねられた稲のことで“税として納めるために用意された稲”を指しています。今の租税は、金で納入するので「税金」と呼ぶようになりました。

粗は、積み重ねられた米ということで「玄米」が本義です。禾は^キ禾で、稲の象形ですが、米は稲から脱穀した米粒の象形です。税用の米は、長く貯蔵され、もみがらをつけたままですから禾へんで、「租」となります。

しかし、家庭用に貯蔵された米は、もみをついてももみがらを取り去り、玄米にしますので米へんの「粗」と言う字になります。食べる時には、玄米をついて、黒皮やぬかを取り去ります。これが精米です。今では、粗も精も、米に関係なく「粗製」「精製」と広い意味で使っています。

助は“力を重ねる”という意味で“力を貸す”つまり“たすける”ことを表わした字です。音は^ソがなまってジョ。援助。助力。

且のついた漢字には「阻」「沮」「沮」などがあります。どういう意味の字か考えてみて下さい。きっと分かるでしょう。

阻は、山また山、山の重なりあった“けわしい”という意味。沮は、崖の重なりあう意味。沮は皮膚のはれ上がる病気です。沮は、堤防を高く積みあげて、洪水を“ふせぐ”という意味の字です。